



GREEN LETTER

グリーンレター

今月の一枚

今月のイベント

参加者募集

GREEN COLUMN

01. 遺跡を見に出かけよう

02. ファンタジーと自然

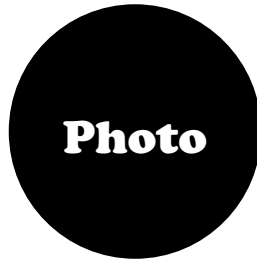
03. 宝石と呼ばれた虫

Vol. 220

2014/12/01



今月の一枚



「せせらぎ公園のエゾリス」

表紙写真・文／八重柏誠

先日、せせらぎ公園を散策していると、突然空から黒い物体が降ってきました。黒い物体は、「トン！」という音と共に地面に着地し、こちらの方を見たかと思うと、一目散に木の上に駆け上がっていきました。なにかと思い、木の上にいるその物体をよく見てみると、それはエゾリスでした。

エゾリスが居た場所は、たくさんの車が行き交う道路のすぐ脇にある林の中です。こんな賑やかな場所で暮らしていたのかと、少しだけ驚いてしまいました。

01 GREEN COLUMN グリーンコラム

遺跡を見に 出かけよう

写真・文／八重柏誠



先日、「身近な遺跡に行ってみよう」と題した、博物館歴史講座を行いました。歴史講座としては、初めて博物館を飛び出しての講座となります。

今回訪れた遺跡は、美幌町にあるリンナイチャシと、津別町にあるツペットウンチャシの2か所です。チャシは、アイヌ文化期に砦や儀式の場として使われたと考えられています。ツペットウンチャシは、平成20年に美幌町教育委員会によって試掘調査が行われており、調査では鉄製の刀や鍰（つば）、16世紀末～17世紀初頭の中国産磁器のかけらなどが出土しています。ツペットウンチャシは廃棄後に、駒ヶ岳c2火山灰(1694年に噴出した火山灰)によって覆われていたことや、出土した磁器の年代から、17世紀代に使われたことが明らかになりました。

さて、ツペットウンチャシが使わ

れていた17世紀代の北海道の出来事として、真っ先に挙げられるのが、1669年に起こった「シャクシャインの戦い」ではないでしょうか。和人に対する、アイヌ民族最大の蜂起ともいえる戦いですが、これ以前から和人やアイヌ民族同士の抗争が各地で行われていたようです。ツペットウンチャシには、他のコタンからの襲撃に備えてブンキ（番人）を置いた場所、との伝承が残されています。17世紀の網走川流域においても、なんらかの争いがあったのかもしれません。

今回見学した2つのチャシの他に、美幌町周辺には、網走市の桂ヶ岡チャシ、小清水町のアオシマナイチャシ、陸別町のユクエピラチャシなどが見学しやすい場所です。これから長い冬の季節となってしまいますが、春の雪解けとともに、身近に存在するチャシを訪れてみてはどうでしょうか。

ファンタジーと 自然

写真・文／久山春美



先日、遠方に住む友人に美幌峠の写真を見せたところ、「ファンタジー！」との感想をもらいました。なんて純粋な感動が込められている反応なのだろうと、逆に自分が感心してしまいました。広辞苑をひくと、「ファンタジー(fantasy)①空想。幻想。白昼夢。②幻。」と掲載されています。昔から変わらず存在している、なじみの景色をこんな風に表現されるとは、全く予想外のことでした。

それからほどなくして、私が出会ったある画家がいます。その名前はフェルディナンド・ホドラー、19世紀末から20世紀初頭のスイスを代表する画家です。「パラレリズム(平行主義)」と呼ばれる美術理論を提唱し、人物やアルプスの風景を描いた作品で知られています。同一のモチーフを繰り返し描くことも多く、中でも「トゥーン湖とシュトックホルン山脈」という

主題では33点の作品を残しました。

幾度も同じ場所に立ちながら、彼はその景色の中に反復やリズムを見だし、キャンバスの上に構築していきました。まるで絵画の中で造形実験を楽しむような作品からは、自然と向き合ったあらゆる瞬間の、画家の新鮮な気持ちが伝わってきます。

ホドラーは、「もっとも強力なファンタジーは、尽きることのない啓発の源泉たる自然によって養われる。」という言葉を残しています。少し強引ですが、友人はまさに大いなる自然を感じて、前述のような言葉を発してくれたのかもしれませんが。ファンタジーと自然はつながっているものだったのです。次の機会には、私もこの巨匠のような目で美幌峠の風景を捉えてみたい、と感じた冬のはじまりでした。

03 GREEN COLUMN グリーンコラム

宝石と 呼ばれた虫

写真・文／鬼丸和幸



昆虫の中には、体の色形がとても美しいものが少なくありません。

オオルリオサムシは、体の色が金緑色、赤銅色、暗紫色…と非常に美しく、“虫の宝石”とも呼ばれています。体長は30ミリ前後の甲虫の仲間で、北海道にのみ生息しています。「鉄腕アトム」の作者である、漫画家の手塚治虫氏の“治虫”が、“オサムシ”からつけられたことは有名な話です。

オオルリオサムシは、春～初夏にかけて、活発に活動します。主に平地～山地に生息していますが、夜行性のため、日中はあまり見かけることがありません。幼虫も成虫も、カタツムリの仲間を食べています。美幌町では、美幌峠周辺などで、オオルリオサムシの亜種であるキタオオルリオサムシの生息が確認されています。

オオルリオサムシの特徴は、何と

言っても「ハネ（後翅＝後ろのハネ）が退化」していることです。そのため、地面を歩行しながらエサを探します。遠くへ飛んでいくことができないため、大きな川や山で分断された地域にすむオオルリオサムシは、他の地域にすんでいるオオルリオサムシと、違う色や形をしていることがわかっています。北海道内でも、地域によって色形が異なるオオルリオサムシ類(亜種)が、数種類確認されています。

博物館では、キタオオルリオサムシの標本を常時展示しています。機会がありましたら、ぜひご覧になってください。

【発行】

美幌博物館

【デザイン・編集】

城坂結実

【お問い合わせ先】

美幌博物館

北海道網走郡美幌町字みどり 253-4

Tel / 0152 (72) 2160 Fax / 0152 (72) 2162

mail / museum@town.bihoro.hokkaido.jp

<http://www.town.bihoro.hokkaido.jp/museum/index.html>

無断掲載・転載を禁ずる

平成 26 年 11 月 4 日 (火) ～平成 27 年 2 月 16 日 (月)

暖房改修工事のために、閉館しております。

みなさまには、大変ご迷惑をおかけしますが、よろしくお願いします。

学芸員のつぶやき

.....



巷では、「学校の怪談」話が流行っていると聞きますが…旧中学校校舎への資料移転作業に追われている日々ですが、作業終了して事務所に戻り、上着ポケットから作業で使用している革手袋を取り出すと・・・手袋の中から丸まった 500 円切手が落ちてきました。500 円切手を買った覚えもないけれど…単なる物忘れ?? でも何でこんな所から?? (鬼丸)